

平成27年度第III期常設展 「麗しいうるしの世界」

平成27年度第III期常設展のテーマは、「麗しいうるしの世界」です。
うるしの木から頂いた樹液で人々の知恵により美しい工芸品が生まれます。琉球王国時代から現代にいたる琉球漆芸の世界と漆器そのものの魅力を紹介します。

● 王朝文化の華・漆芸と古都浦添

琉球の漆芸は一四、五世紀にはあつたと考えられています。琉球漆器とその技術にはアジアとの交易が活発であった時代の影響もうかがえます。一七世紀頃には、王府具擲奉行所の設置により、中国や日本との交易品や国内用の漆器が製作されました。今回は琉球漆器の名品と、中山王陵「浦添ようどれ」出土漆膜や近世後期に王子の位を与えられた浦添朝憲ゆかりの品を展示します。

● 琉球漆器の歳時記

琉球漆器の特徴の一つは中国風の文様です。花鳥風月や故事を文様として装飾します。こうした文様を取り入れ琉球独特の技術や感性により生まれた漆器と、座敷飾りや正月などの年中行事に用いられる漆器を紹介いたします。

● モダン琉球漆芸

一八七九年、琉球国が解体して沖縄県となると、急ピッチで近代化が進みました。県外からの寄留商人による漆器産業の興隆時代の流れに沖縄らしいモダンなデザインの漆器が生まれます。沖縄戦からの復興、そして現代の作家らによる新たな作品を紹介いたします。

● 第II期常設展 五感で楽しむ

「うるし」関連講座

「五感で楽しむ」「三線」報告

今年度は、常設展第一期から第III期まで各1回展示テーマに関する講座を行います。

現在、第II期常設展では「五感」をテーマに漆器を展示しています。その中から「聴覚」で楽しむ「三線」で展示されている琉球三線に焦点をあて、10月9日(金)、三線の作り手である仲嶺幹氏(仲嶺三線店代表)をお迎えした第2回目の講座を開催しました。

講座では、三線の歴史や伝統的な7つの型について、展示されている作品を見ながらお話いただきました。その後、場所を喫茶花うるしのに移し、漆の器でお茶とお菓子を楽しみながら、三線の製作工程、現状や課題、三線の未来についてなど幅広い内容でお話いただきました。中でも、三線製作で使用するへび皮の大きさに、参加者の皆さんが驚いている様子が印象的でした。



へび皮の大きさに、参加者から驚きの声

三線の魅力に触れ、さらに常設展を楽しんでいただくきっかけとなる、貴重な時間になりました。なお、第II期常設展は平成28年1月11日(月)までです。お見逃しなく！

● 漆器を愛でる

漆器はもつと人の暮らしに身近な工芸品でした。当館のコレクションには暮らしの中の漆器が多くあります。収集家から寄贈いただいたこれらの漆器や装飾品・飲食器など人々の愛用品の数々を紹介します。

● うるし西西南北

うるしの木が育つアジア圏に漆芸文化があります。沖縄から西西南北を見渡して国内外各地の漆器と資料をご覧ください。

- ※新春特別展
- ・「琉球婚姻の図」二幅 大正時代
- ・「天女乱舞」六曲一隻
- 池田満寿夫(一九三四—一九九七)
- 会期 平成28年1月15日(金)～4月23日(土)
- 観覧料 一般/150円 大学生/100円 高校生以下/無料



朱漆花鳥密陀絵盆 縁漆沈金堆錦盤「首里の飛翔」眞眞茂作

「天女乱舞」池田満寿夫

● 琉球の漆文化と科学2015

素材から見える 琉球の漆器と植物

去る11月14日(土)に「琉球の漆文化と科学2015」が浦添市でだこホール市民交流室で開催されました。今回は「素材から見える琉球の漆器と植物」をテーマに、民俗や歴史、科学などの切り口から研究発表が行われました。基調講演に沖縄美ら島財団理事長の花城良廣氏をお迎えして、「琉球列島の有用植物について」と題し、知っているようであまり知らない身近な植物の有用性について講演いただきました。

また、能城修一氏(国立研究開発法人森林総合研究所)には「縄文時代のウルシとその利用」、宮腰哲雄(明治大学教授)、篠原礼乃氏(阿部篤志氏・上江洲安亨氏(沖縄美ら島財団)、岡本亜紀・宮里正子(浦添市美術館)、山府木碧氏(明治大学研究員)から名護に生息するハゼノキの樹液や、



講演会の様子

● 学生発表会

美術館では、たくさんのお客様のイベントを企画しています。イベントに参加しよう!と思っても「気づいたら会期が過ぎていた」「募集期間が終わっていた」など、お困りになったことがあると思います。そこで、皆様に美術館情報が届くサービスを始めました!「メールマガジン!」

月に1~2回美術館の情報を伝えていきます。企画展の案内はもちろん特集を組み、あなたにとって耳よりな情報をご提供します。登録は無料です。ぜひぜひ登録をお願い致します。(川満)



こちらから「浦添市美術館ニュース」を登録

● 「塗り」2・5次元の装飾

ジェルネイルが好きです。樹脂を爪に塗って、紫外線で硬化させて施術します。塗面がつるつるして可愛らしく、水仕事にも強い。端正な飾りや色にすることもでき、派手な色で挑戦的なデザインにもできます。

漆工芸とジェルネイルは、「塗り」によって実用と装飾の双方を志向する点で似ていると思います。小さな石を嵌めたり、ラメを蒔いたり、細い筆で絵を描いたり、螺鈿のようなホログラムを埋め込んだり。ただ生活していることから一歩進んで「日常を飾る」という、その気持ちに感性の尊厳が発生することを面白いと思っています。(久田)

● 基調講演

● 沖縄美ら島財団花城理事長

● 「琉球列島の有用植物について」

捲胎や藤縁の琉球漆器、そしてバンコクでの藤胎螺鈿の製作についてといった多岐に渡る報告がありました。講演会後にはポスター発表も行われ、9点のポスターが掲示されました。

植物には有用植物とそうでないものがあると考えられています。例えば、食用や薬用に用いることができます。例えば、食用や薬用に用いることができれば、経済的な効果が、即座に経済的な効果が得られるものだけが有用というわけではなく、自然の構造を観察し、学ぶ事で展開できるものがあります。

例えばヌズビトハギの葉の硬い産毛のような、小さな棘は顕微鏡で見ると、鉤状になっています。このくっつきやすいという構造をマジックテープに転用しています。

花城氏は植物の機能という面に加え、「植物がなぜこの構造をしているのか」という目で観察することを提案されました。会場では、「琉球列島の資源植物・繊維植物」についてのレジユメが配られ、植物の方言名や伝承から植物の特性を研究していく植物民族学の研究方法を、各地での調査写真と共に幅広く紹介されました。

また、八重山にある巨大大豆の活用法や、パイナップルの葉から美しい繊維が取れること、アジアの植物の利用状況など、身近な事例からお話頂き、参加者は興味深く聞き入っていました。

美術館スケジュール 2015年12月~3月 ※タイトルや日程は変更になる場合があります。		
■常設展 展覧会名称	会期	主催
平成27年度 第III期常設展「麗しいうるしの世界」	1/15(金)~4/23(土)	浦添市美術館
■企画展 展覧会名称	会期	主催
岩間由希子油絵展	12/1(火)~12/6(日)	岩間 由希子
東恩納溪石書作展	12/2(水)~12/6(日)	東恩納溪石書作展実行委員会
第21回沖縄県中学校総合文化祭	12/12(土)~12/13(日)	沖縄県中学校文化連盟
第31回沖縄県立浦添工業高校デザイン科卒業作品展	12/17(木)~12/20(日)	沖縄県立浦添工業高校
第16回浦添市小中学校美術作品展	12/23(水)~1/17(日)	浦添市美術館
祥齋書会書道展	1/20(水)~1/24(日)	太巷書芸会
佐川毅彦・毅志親子絵画展	2/3(火)~2/7(日)	佐川毅彦
日本習字運天支部教室33周年記念作品展	2/5(金)~2/7(日)	日本習字運天支部教室
琉球大学教育学部美術教育専修・大学院美術教育専修「卒業・修了」展	2/10(水)~2/14(日)	琉球大学教育学部美術教育講座
PIECE OF PEACE『レゴ@ブロック』で作った世界遺産展 PART-3	2/20(土)~4/10(日)	沖縄タイムス社
開館時間	午前9時30分~午後5時 ※金曜日は午後7時まで(入館は閉館の30分前まで)	休館日
		月曜日(祝日の場合は開館) ※12/28~1/4 年末年始休館